

国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョーの新ディレクターを発表 ディレクターに長島 確が就任

フェスティバル/トーキョー実行委員会(名誉実行委員長：高野之夫 豊島区長、実行委員長：福地茂雄)は、フェスティバル/トーキョー(以下F/T)の新ディレクターに長島確が就任することを発表いたしました。F/Tは2009年の開始以降、東京で開催される国内最大規模の国際舞台芸術祭として、日本のみならずアジアの同時代の舞台芸術を牽引してきました。今後もF/Tは新ディレクターの長島確、共同ディレクターの河合千佳の下、舞台芸術の多角的な魅力を発信し、東京や日本の文化・芸術の発展に貢献していきます。

なお、今秋のフェスティバル/トーキョー18の開催概要については、5月に発表予定です。



長島確メッセージ

この10年にわたって演劇・ダンス・アートの現在を牽引してきた国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョー(F/T)のディレクターを引き継ぎます。演劇やダンスは作り手も観客も同じ時間に同じ場所にいなければ成立しません。そんな面倒なメディアが、この巨大な速度と過密の都市・東京を基点に、いまあらためてどんな機能を果たせるのかに興味があります。F/Tはこれまで、アートの重要な役割のひとつとして、政治や経済の主流とは別のチャンネル、別のドアを開くことに注力してきました。それはすなわち、新しい交点や接点を生み出すことであり、現実社会のなかに、もうひとつの〈居場所〉を出現させることでもあります。今年2018年度は移行期として、現ディレクター市村作知雄氏のプログラムを引き継ぎつつ、次年度以降へ向けて、共同ディレクターとなる河合千佳氏とともに、新しい世代のためのフェスティバルを目指していきます。

長島確(ながしま・かく)

1969年東京生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わるようになる。その後、日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年は演劇の発想やノウハウを劇場外に持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』(阿部初美演出、TIF2007)、『4.48 サイコシス』(飴屋法水演出、F/T09秋)、『フィガロの結婚』(菅尾友演出、日生オペラ2012)、『効率学のススメ』(新国立劇場、ジョン・マグラー演出)、『DOUBLE TOMORROW』(ファビアン・プリオヴィル演出、演劇集団円)ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』(ともに東京アートポイント計画)、「ザ・ワールド」(大橋可也&ダンサーズ)、『←(やじるし)』(さいたまトリエンナーレ2016)など。東京芸術祭2018「プランニングチーム」メンバー、東京藝術大学音楽環境創造科特別招聘教授。

■フェスティバル/トーキョーとは

フェスティバル/トーキョー(F/T)は、東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集結する文化拠点を中心に開催する、日本最大級の国際舞台芸術祭です。2009年に誕生し、過去10回の開催において270作品、2045公演、約61万人を越す観客・参加者が集いました。

昨年秋に開催されたF/T17は、F/T実行委員会、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益法人東京都歴史文化財団)が主催し、文化庁による助成、多くの企業の支援のもと2017年9月30日(土) - 11月12日(日)までの44日間にわたり開催されました。2016年から東京芸術祭の一環として開催され、国内外の先鋭的なアーティストが集結し、都市型フェスティバルの可能性とモデルを更新するべく、新たな挑戦を続けています。



F/T17 『Toky Toki Saru (トキトキサル)』
Photo: Takashi Fujikawa (Alloposidae)

F/T16 『Woodcutters - 伐採 -』
Photo: Jun Ishikawa

F/T15 『地上に広がる大空 (ウェンディ・シンドローム)』
Photo: Jun Ishikawa

F/T14 『フェスティバル FUKUSHIMA! @ 池袋西口公園』
Photo: Ryosuke Kikuchi

■F/Tの歩み

NPO法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ)が2002年から開催してきた東京国際芸術祭(TIF)を、2009年に行政機関等との連携の下、「フェスティバル/トーキョー」と名称を変え、新たなフェスティバルとしてスタート。第1回は春、2回目以降は秋に開催されている。国内外のオリジナルな作品創作と上演、公共空間でのパフォーマンス、観客参加型演劇などを積極的にラインナップ。2009年～2013年は相馬千秋がプログラム・ディレクターを担当し、2014年から市村作知雄がディレクターズ・コミッティ代表に就任(2016年からはディレクター)。

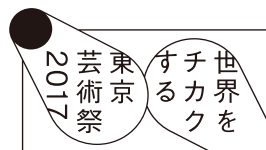
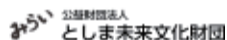
F/T 開催実績

| | F/T09 春 | F/T09 秋 | F/T10 | F/T11 | F/T12 | F/T13 | F/T14 | F/T15 | F/T16 | F/T17 |
|-----------------------|---|--|--|---|--|---|---|--|---|---|
| | 2009年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
| 名誉実行委員長 | 高野之夫 豊島区長 | | | | | | | | | |
| 実行委員長 | 市村作知雄 | | | | | 荻田 伍 | | | 福地茂雄 | |
| ディレクター | 相馬千秋 プログラムディレクター | | | | | 市村作知雄 ディレクターズコミッティ代表 | | | 市村作知雄 ディレクター | |
| | | | | | | | 小島寛大 副代表 | 小島寛大 副代表 河合千佳 副代表 | 河合千佳 副ディレクター | |
| 会期 | 2/26-3/29 (32日間) | 10/23-12/21 (60日間) | 10/30-11/28 (30日間) | 2/26-3/29 (32日間) | 10/27-11/25 (30日間) | 11/9-12/8 (32日間) | 11/1-11/30 (30日間) | 10/31-12-6 (31日間) | 10/15-12/11 (58日間) | 9/30-11/12 (44日間) |
| 主催プログラム数 | 14 演目 | 16 演目 | 15 演目 | 10 演目 | 12 演目 | 16 演目 | 15 演目 | 15 演目 | 16 演目 | 14 演目 |
| 公募プログラム数 | - | - | 8 演目 | 11 演目 | 11 演目 | 9 演目 | - | - | - | - |
| 連携プログラム数 | 5 演目 | 4 演目 | 3 演目 | 6 演目 | 9 演目 | 6 プログラム | 11 演目 | 18 演目 | 14 演目 | 12 演目 |
| 公演回数 | 127 | 155 | 206 | 241 | 172 | 285 | 336 | 173 | 171 | 179 |
| 総事業費 | 約 37,000 万円 | 約 37,000 万円 | 約 33,000 万円 | 約 33,000 万円 | 約 35,000 万円 | 約 35,000 万円 | 約 36,000 万円 | 約 29,000 万円 | 約 24,000 万円 | 約 23,000 万円 |
| のべ総来場者数 | 約 6 万人 | 約 6 万 5 千人 | 約 6 万 5 千人 | 約 3 万 5 千人 | 約 4 万人 | 約 10 万人 | 約 6 万人 | 約 6 万人 | 約 8 万人 | 約 5 万人 |
| 参加アーティスト (抜粋/50音順) | 館屋法水 山海塾 白井剛 蜷川幸雄 平田オリザ 松田正隆 ロメオ・カステルッチ | イ・ユンテク 維新派 黒田育世 タニノクロウ ブルーノ・ベルトラオ 松井周 ラビア・ムルエ リミニ・プロトコル | ジゼル・ウィエンヌ 高山明 勅使川原三郎 前田司郎 三浦基 ロジェ・ベルナット ロドリゴ・ガルシア クリストフマルターラー | 伊藤キム カオス*ラウンジ ジェローム・ベル 杉原邦生 快快 宮沢章夫 ルネ・ポレシュ | アルバード・シリング 岡崎藝術座 小野寺修二 ジャン・ミシェル・ ブリュイエール/LFKs 三浦大輔 ユン・ハンソル | いとうせいこう エルフリーデ・ イェリネク 木ノ下歌舞伎 近藤良平 シアタースタジオ インドネシア 椿昇 バック・トゥ・バック シアター | 大友良英 白神ももこ ソ・ヒョンソク ビーター・ブルック 毛利悠子 矢内原美邦 渡辺源四郎商店 | アンジェリカ・リデル 岡田利規 危口統之 多田淳之介 宮城聡 安野太郎 | 井手茂太 ジョー・クカサ クリスチャン・ルバ セバスチャン・ マティアス スザンネ・リンケ バク・グニオン 山本卓卓 | 柴幸男 スン・シャオン チェン・ティエンジュオ 中野成樹 ピチエ・クランチェン 森栄喜 ワエル・シャウキー |

フェスティバル/トーキョー実行委員会

豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、

アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



tokyo-festival.jp

広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

広報：小倉明紀子、神永真美

TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 MAIL : press@festival-tokyo.jp

〒170-0031 東京都豊島区目白 5-24-12 旧真和中学校 4 階